



Plus RMA



第1号 2020/4/1
一般社団法人 RMA

❁ CONTENTS ❁

❁ 新年度を迎えて	井口 新一 2
❁ 本物性について	宮川 雅明 3
❁ 連載 国際規格 ISO 15189 とは何か	関 顯 4
⑤ ISO/TC212 と WG4 の活動状況	
❁ RMA2020年度公開セミナー・講演会 開催予定表	8
❁ 事務局だより	10

新年度を迎えて

「RMAセミナー会員制度」発足とRMA Plus 創刊

一般社団法人 RMA 代表理事
井口 新一

会員の皆様におかれましては、平素よりRMAの活動に格別のご理解並びにご支援を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスCOVID-19の感染拡大に伴って、試験所見学会や公開セミナーの開催延期又は中止並びに受講時期変更のお願いなど皆様にはご不便やご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。同時に状況をご理解いただきご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。

COVID-19対応はまだ暫く続くものと思われませんが、RMAとしては、状況を十分把握しながら可能な安全対策をとって慎重に活動を継続していきたいと考えております。会員の皆様には、今暫くご不便をおかけすることになるかと思いますが、今後ともご理解のほどを宜しく願います次第です。

I. RMAセミナー会員制度の開始

昨年秋に会員の皆様のご意向を伺い、当法人の創設以来馴染んでいただいたJABLAS会を発展的に解消し、今年度から新たに「RMAセミナー会員制度」を始めさせていただくことになりました。

このセミナー会員制度は、これまでのJABLAS会会員制度が提供しておりました会員メリットをさらに充実させ、一方で会員資格維持の条件のほとんどを削除しております。この変更は、ここ数年来RMAが活動方針としております「より多くの皆様にRMAの活動に参加していただき、RMAをより多く活用していただく」に沿った環境作りの一貫と位置づけております。

今後とも、会員の皆様のご意見やご要望を伺いながら、必要とされる、あるいは今後必要と考えられる情報の提供が適時に実施できるRMA活動となるように努力してまいります。

毎年6月に開催してきましたJABLAS会総会は、今回の制度変更により名称を「RMAフォーラム」として継続開催してまいります。本年度は6月11日(木)に京都で、6月19日(金)に東京で開催を予定しておりますが、RMAフォーラムのプログラム内容及び講演者のスケジュール調整などが終わり次第、皆様に改めてご案内をさしあげます。RMAフォーラムのプログラム構成はJABLAS会総会時のプログラムと同じ構成で実施する予定です。

II. RMA Plusの創刊

情報誌JABLAS NEWSもRMAセミナー会員制度の開始に伴って名称を「RMA Plus」と改名し、これまで同様RMA活動の情報発信の一手段として内容の充実を図り年4回の発刊を継続いたします。

JABLAS NEWSは、2009年9月に創刊号を発刊して以来、2020年1月の第43号までほぼ年4回の発行を行ってまいりました。情報誌名がRMA Plusとなってもこれまでと変わらずご愛読いただければ幸いです。

最後になりましたが、本年度も皆様のますますの業容拡大と発展を心より祈念しております。

本物性について

一般社団法人 RMA理事
英国国立ウェールズ大学トリニティセントデイビッド(UWTSD) 大学院特定教授
経営コンサルティング会社代表取締役
宮川雅明

1998年、経済のサービス化への変化をとらえ、いち早く経験経済を提唱したJames H. GilmoreとB. Joseph Pine IIは、その著書“Authenticity: What Consumers Really Want (2007)”の中で本物性の重要性を指摘している。

本物性は5つに区分される。①自然的本物性…人工⇔自然の区分から認識する。例えば、有機野菜などは自然なもの=本物と感ずる、認知する。②オリジナルの本物…模倣⇔オリジナルの区分から認識する。芸術の価値などはその代表的なものである。③希少的本物(例外的本物)…不純⇔純粋の区分から認識される。希少なものの、その場所でしか入手できないものは、商売というよりこだわりを感じる。欧州などの地ビールなどもこれに該当する。④知覚的本物(参照的本物)…リアルでない⇔リアルの区分で認識する。バーチャルリアリティーなどの技術が進みかなりリアリティーさは追求されているが、疑似体験の域は超えない(今後はこれを超えるものも出てくるだろう)。偽ブランドなどもこの範疇に入る。本物でないと感じるのは知覚が働くからである。⑤姿勢的本物(影響的本物)…不真面目⇔真摯の区分で認識する。品質、商品の由来、販売方法などが該当する。

本物性とは、経験経済という進化の中で、もともとあったというよりは、知覚によるもの、属性や姿勢などが重視されるようになった。

昨今、権威ある組織でのデータ改ざん、データ不正、財務諸表の不正、不正販売などは毎年のように出てくる。生活者はこうした事実を観ると、⑤姿勢的本物を疑うことになる。一時的なこと、ミスで起こったこととは思わ

ない。恒常的に、組織的、意図的に行われたもので、その判断基準は消費者のベネフィットではなく、自己の利益の優先である。その体質は変わっていないのではないか。謝罪はあっても責任逃れの弁明に終始し、忘れ去られるのを待っているのではないかと人々は感じている。むしろ、そうした組織のトップこそが悪事を働いていると多くの庶民は思っているのではないか。

一つ指摘しておきたい。消費者心理にはシステム1(注)とシステム2という定義がある。あなたが、このサービスは二度と利用したくない、或いは何か嫌な思いをしたと否定的な印象を持ったとする。これは安易な判断ではなく、理由をもって認識した結果であるので、脳の中に刷り込まれる。つまり簡単には消えない。これをシステム2という。

(注) 消費者行動において、システム1とは直感的、瞬間的、知覚表象で努力を要しない。一方、システム2は推論、概念表象、努力を要する。

これからの経済はサービスが全てのキーワードになる。これまでは品質の信頼性、本物性は当然であったかもしれないが、今はそうは思われていない。⑤姿勢的本物性が見えないものは本物ではないのではないかと、信頼できないのではないかとみられる。

この会社の製品・サービスだから信頼できる～という感覚では不十分だと思った方がよい。仮に、姿勢的本物性を全面に出した競合が現れたら勝てるだろうか。今の戦略で十分だと思っはいけない。

《連載》 国際規格ISO 15189とは何か

⑤ ISO/TC212とWG4の活動状況

一般社団法人RAM理事
ISO/TC212国内検討委員会委員
関 顯

1. ISO/TC212/WG4の活動

ISO/TC212/WG4は、Microbiology and molecular diagnosis (微生物学と分子診断)に関する規格をスコープとしている。

コンビーナはDr. Uwe Oelmueller 氏 (独国) が務め、メンバーは、約30か国からアカデミアと産業関係者そしてリエゾンのMedTech Europe、ISO/TC276Biotechnologyからの専門委員115名で構成されている。WG4の活動は、微生物検査全般および遺伝子関連検査の検査前プロセスから検査法などWG内で最多の23国際規格の作成・改訂を担当している (表)。

ISO/TC212/WG4では、日本から新規提案したISO/DIS 21474-1「体外診断用医薬品・医療機器—核酸に対する多項目核酸検査—第一部:用語と核酸品質評価に対する一般的要求事項」とISO/NP 21474-2「体外診断用医薬品・医療機器—核酸による多項目遺伝子検査—第二部—妥当性の確認と検証」の2件の国際規格案がプロジェクトリーダー宮地勇人委員長 (東海大学医学部教授) を中心に審議している。

2. ISO/TC212国内検討委員会WG4の活動

ISO/TC212国内検討委員会WG4は、石井良和国内代表 (東邦大学医学部教授) の下で日本臨床検査医学会、日本臨床衛生検査技師会、日本病理学会、日本臨床微生物学会、日本衛生検査所協会から委嘱された13名の委員で構成されている。ISO/TC212中央事務局から

依頼された審議規格について国内検討委員会WG4委員に意見徴収を行い、その結果に基づく意見をISO/TC212中央事務局に提出するとともに規格文書承認に関する投票を行う。

3. ISO 15189の改訂

2019年11月にメキシコで開催された第24回ISO/TC212メキシコシティー総会・WG会議では、ISO CD 15189に対するPメンバーから寄せられた500件以上のコメントが提出された。3つのProject Team—Team A (General, structure and management system)、Team B (Personnel and equipment)、Team C (Pre-examination, examination, ensuring quality, and post-examination)に分かれて提出されたコメントを審議した。Team A ではインフォームドコンセント、リスクマネジメント、用語、QMS、内部監査に関する多くのコメントを審議。Team BではPersonnelの要件、リスクマネジメントが審議された。Team C ではPT、EQA、QC、Quality control、Quality policyなどの用語の定義を中心に審議された。2020年3月締切で現在CD投票中である。2020年4月29日から5月1日までオーストラリア・シドニーで開催予定であったWG1会議は、新型コロナウイルスのパンデミックで中止となった。次回のWG4会議は11月にスウェーデン・ルントでの開催予定である。

今後、WG1でDIS、FDISと審議を進め、2022年3月の国際規格 (IS) 発行を目指す。その後ISO/TC212国内検討委員会で翻訳をすすめる予定である。

表 ISO/TC212/WG4 Microbiology and molecular diagnosticsで審議中の項目

文書番号	英語規格名称	ISO/TC212国内検討委員会が推奨する名称	最新の審議状況
ISO/PWI 3181	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for saliva -- Isolated DNA	分子学的体外診断試験- -唾液の試験前プロセスの規格—DNA抽出	2019-09-19 新規プロジェクト案の受領
ISO/NP 4307	Molecular in vitro diagnostic examinations — Specifications for pre-examination processes for saliva — Isolated human DNA	分子学的体外診断試験- -唾液の試験前プロセスの規格—ヒトDNA抽出	2020-02-07 新規プロジェクトの承認
ISO 16256:2012 (Ed. 1)	Clinical laboratory testing and in vitro diagnostic test systems -- Reference method for testing the in vitro activity of antimicrobial agents against yeast of fungi involved in infectious diseases	臨床検査及び体外診断検査システム--感染症に関連する酵母様真菌に対する抗菌薬の体外活性検査の基準法	2019-05-06 ISの改訂
ISO/NP 16256 (Ed. 2)	Clinical laboratory testing and in vitro diagnostic test systems -- Reference method for testing the in vitro activity of antimicrobial agents against yeast of fungi involved in infectious diseases	臨床検査及び体外診断検査システム--感染症に関連する酵母様真菌に対する抗菌薬の体外活性検査の基準法	2019-08-22 新規プロジェクトの承認
ISO/TS 16782:2016 (Ed. 1)	Clinical laboratory testing -- Criteria for acceptable lots of dehydrated Mueller-Hinton agar and broth for antimicrobial susceptibility testing	臨床検査--非特殊栄養要求性(非選好性細菌)の抗菌薬感受性検査のための乾燥Mueller-Hinton寒天及び肉汁の利用可能なロットに関する基準	2019-10-15 ISの定期見直し
ISO/TS 17822-1:2014 (Ed. 1)	In vitro diagnostic test systems -- Qualitative nucleic acid-based in vitro examination procedures for detection and identification of microbial pathogens -- Part 1: General requirements, terms and definitions	体外診断検査システム—微生物病原体の検出と同一の為の核酸体外診断用製品--第一部--用語及び定義の一般要求事項	2019-03-29 ISの確認
ISO/DIS 17822-2 (Ed. 1)	In vitro diagnostic test systems -- Quantitative nucleic acid based in vitro examination procedure for detection and identification of microbial pathogens - Part 2 - Quality practices for nucleic acid amplificatio	体外診断検査システム—微生物病原体の検出と同一の為の核酸体外診断用製品--第二部--核酸増幅の品質規範	2020-02-02 投票の終了

文書番号	英語規格名称	ISO/TC212国内検討委員会が推奨する名称	最新の審議状況
ISO 20166-1:2018 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for formalin-fixed and paraffin-embedded (FFPE) tissue -- Part 1: Isolated RNA	分子学的体外診断試験- -FFPE組織の試験前処理の規格--第一部:RNA抽出	2018-11-26 ISの発行
ISO 20166-2:2018 (Ed. 1)	Molecular in-vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for formalin-fixed and paraffin-embedded (FFPE) tissue -- Part 2: isolated proteins	分子学的体外診断試験- -FFPE組織の試験前処理の規格--第二部:タンパク抽出	2018-11-30 ISの発行
ISO 20166-3:2018	Molecular in-vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for formalin-fixed and paraffin-embedded (FFPE) tissue - Part 3: isolated DNA	分子学的体外診断試験- FFPE組織の試験前処理の規格--第三部:DNA抽出	2018-12-14 ISの発行
ISO/CD 20166-4	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for formalin-fixed and paraffin-embedded (FFPE) tissue -- Part 4: in situ detection techniques	分子学的体外診断試験- FFPE組織の試験前処理の規格--第四部:イン・サイチュでの検出技術	2020-01-30 CD検討/投票の開始
ISO 20184-1:2018 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for frozen tissue -- Part 1: Isolated RNA	分子学的体外診断試験- 凍結組織の試験前処理の規格--第一部:RNA抽出	2018-11-22 ISの発行
ISO 20184-2:2018 (Ed. 1)	Molecular in-vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for frozen tissue -- Part-2 : Isolated proteins	分子学的体外診断試験- 凍結組織の試験前処理の規格 第二部:タンパク抽出	2018-11-07 ISの発行
ISO/CD 20184-3 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for frozen tissue -- Part 3: Isolated DNA	分子学的体外診断試験- 凍結組織の試験前処理の規格--第三部:DNA抽出	2019-12-20 CD検討/投票の開始
ISO 20186-1:2019 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for venous whole blood -- Part 1: Isolated cellular RNA	分子学的体外診断試験- 静脈全血の試験前処理の規格--第一部:血液細胞内RNA抽出	2019-02-19 ISの発行
ISO 20186-2:2019 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for venous whole blood -- Part 2 :Isolated genomic DNA	分子学的体外診断試験- 静脈全血の試験前処理の規格--第一部:血液ゲノムDNA抽出	2019-02-19 ISの発行
ISO 20186-3:2019 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for blood -- Cellular RNA -- Part 3: Isolated circulating cell free DNA from plasma	分子学的体外診断試験- 血液の試験前処理の規格--第三部:血漿の循環セルフリーDNA抽出	2019-09-25 ISの発行

文書番号	英語規格名称	ISO/TC212国内検討委員会が推奨する名称	最新の審議状況
ISO 20776-1:2019 (Ed. 2)	Susceptibility testing of infectious agents and evaluation of performance of antimicrobial susceptibility test devices -- Part 1: Broth micro-dilution reference method for testing the in vitro activity of antimicrobial agents against rapidly growing aerobic bacteria involved in infectious diseases	感染症原因菌の抗菌薬感受性検査及び感受性検査機器の性能評価--第一部:感染症と関連する好気性の迅速発育菌に対するin vitro抗菌薬活性検査の微量液体希釈基準法	2019-06-05 ISの発行
ISO 20776-2:2007 (Ed. 1)	Clinical laboratory testing and in vitro diagnostic test systems - Susceptibility testing of infectious agents and evaluation of performance of antimicrobial susceptibility test devices -- Part 2: Evaluation of performance of antimicrobial susceptibility test devices	臨床検査と体外診断検査システム-感染性病原体の感受性検査及び抗菌薬感受性検査機器の性能評価--第二部:抗菌薬感受性検査機器の性能評価	2019-04-30 ISの改訂
ISO/PWI 20776-2 (Ed. 2)	Clinical laboratory testing and in vitro diagnostic test systems - Susceptibility testing of infectious agents and evaluation of performance of antimicrobial susceptibility test devices -- Part 2: Evaluation of performance of antimicrobial susceptibility test devices	臨床検査と体外診断検査システム-感染性病原体の感受性検査及び抗菌薬感受性検査機器の性能評価--第二部:抗菌薬感受性検査機器の性能評価	2019-08-22 新規プロジェクトの承認
ISO/DIS 21474-1 (Ed. 1)	In vitro diagnostic medical devices -- Multiplex molecular testing for nucleic acid -- Part 1: Terminology and general requirements for nucleic acid quality evaluation	体外診断用医薬品・医療機器—核酸に対する多項目核酸検査--第一部:用語と核酸品質評価に対する一般的要求事項	2019-11-15 DIS投票の終了
ISO/NP 21474-2	In vitro diagnostic medical devices -- Multiplex molecular testing for nucleic acid - Part 2 - Validation and verification	体外診断用医薬品・医療機器—核酸による多項目遺伝子検査--第二部--妥当性の確認と検証	2019-07-19 新規プロジェクトの承認
ISO/CD 23118 (Ed. 1)	Molecular in vitro diagnostic examinations -- Specifications for pre-examination processes for metabolomics in urine, venous blood serum and plasma	分子学的体外診断試験—尿、静脈血、血漿中の代謝に対する試験前処理の規格	2019-12-21 CD投票/コメント期間の終了

RMA 2020年度 公開セミナー 開催予定表

1/2

No.	公開セミナー	会場	受講料 (消費税込)		2020年度												
					2020年						2021年						
					上期						下期						
					会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
規格解説セミナー ★消費税率10%を適用しております。					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	第48回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000	4/17												
2	第49回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000		5/12											
3	第50回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000			6/16										
4	第51回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000				7/14									
5	第52回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000					8/21								
6	第53回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000						9/24							
7	第54回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000							10/20						
8	第55回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000								11/17					
9	第56回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000									12/17				
10	第57回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000										1/19			
11	第58回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000												2/5	
12	第59回 ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000													3/2
内部監査員養成セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
13	第70回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000	4/21 22												
14	第71回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000		5/14 15											
15	第72回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000			6/4 5										
16	第73回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000				7/1 2									
17	第74回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000					8/19 20								
18	第75回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000						9/10 11							
19	第76回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000							10/8 9						
20	第77回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000								11/10 11					
21	第78回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000									12/3 4				
22	第79回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000										1/13 14			
23	第80回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪	¥44,000	¥88,000											2/16 17		
24	第81回 ISO/IEC 17025:2017 ラボラトリーのための内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京	¥44,000	¥88,000													3/18 19
リスク・マネジメントセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	第11回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000	4/10												
26	第12回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000			6/12										
27	第13回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000				7/10									
28	第14回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000							10/16						
29	第15回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000								11/27					
30	第16回 ISO/IEC 17025:2017 リスク・マネジメントセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000										1/29			

RMA 2020年度 公開セミナー 開催予定表

2/2

No.	公開セミナー	会場	受講料 (消費税込)		2020年度											
					2020年						2021年					
					上期						下期					
					会員	非会員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
不確かさせセミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
31	2020年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000			6/25									
32	2020年版 不確かさにおける基礎から応用までセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000				7/3								
33	これで納得! 2020 GUM 不確かさせセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000							10/6					
34	これで納得! 2020 GUM 不確かさせセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000							10/23					
35	第5回 基本モデル事例で理解する不確かさ演習セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000								12/15				
36	イチからはじめるモンテカルロ計算による不確かさ評価(東京)	東京	¥22,000	¥44,000											2/9	
食品、微生物分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
37	第13回 食品・生物系試験所のための内部監査員養成セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000					8/28							
38	第14回 食品・生物系試験所のための内部監査員養成セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000											2/26	
39	微生物試験におけるバリデーションと不確かさせセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000						9/16						
40	微生物試験におけるバリデーションと不確かさせセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000							10/27					
41	食品・理化学試験 バリデーションと不確かさせセミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000			6/3									
42	食品・理化学試験 バリデーションと不確かさせセミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000				7/8								
臨床検査分野セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
43	第16回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー(大阪)	大阪	¥22,000	¥44,000		5/27										
44	第17回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000			6/24									
45	第18回 ISO 15189 規格解釈と運用セミナー(東京)	東京	¥22,000	¥44,000						9/30						
46	第6回 臨床検査室のための内部監査員養成セミナー基礎編(東京)	東京	¥22,000	¥44,000							10/28					
47	第4回 標準作業書作成セミナー(半日)(東京)	東京	¥11,000	¥22,000										1/27		
48	第8回 臨床検査室 易しい不確かさせセミナー —測定不確かさの推定のコツと留意点—(東京)	東京	¥22,000	¥44,000								11/25				
49	第1回 問題解決のための効果的な是正処置と運用セミナー(半日)(東京)	東京	¥11,000	¥22,000											2/25	
50	第1回 ゼロから学ぶ臨床検査の統計学(半日)(東京)	東京	¥11,000	¥22,000												3/23
試験技術セミナー					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
51	第14回 その「測定数値」を説明できますか? (もっと進めてバージョン3) —トレーサビリティ、内部校正、測定不確かさ、リスクをキーワードに—(東京)	東京	¥22,000	¥44,000			6/8									
52	第15回 その「測定数値」を説明できますか? (もっと進めてバージョン3) —トレーサビリティ、内部校正、測定不確かさ、リスクをキーワードに—(東京)	東京	¥22,000	¥44,000						9/8						
53	第16回 その「測定数値」を説明できますか? (もっと進めてバージョン3) —トレーサビリティ、内部校正、測定不確かさ、リスクをキーワードに—(東京)	東京	¥22,000	¥44,000												3/5
54	第3回 標準物質・技能試験・規格と分析技術の向上(半日)(東京)	東京	¥11,000	¥22,000		5/22										
55	第4回 標準物質・技能試験・規格と分析技術の向上(半日)(東京)	東京	¥11,000	¥22,000								11/6				
ブチセミナー ★消費税率10%を適用しております。					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	第20回ブチ・セミナー「ISOと製品認証」	東京	¥7,700	¥15,400	4/24											
2	第21回ブチ・セミナー「ISOのいろは — はじめの一步 —」	東京	¥7,700	¥15,400		5/21										
3	第22回ブチ・セミナー「ISOと製品認証」	東京	¥7,700	¥15,400				7/17								
4	第23回ブチ・セミナー「ISOのいろは — マネジメントシステム —」	東京	¥7,700	¥15,400						9/17						
5	第24回ブチ・セミナー「ISOと製品認証」	東京	¥7,700	¥15,400							10/30					
6	第25回ブチ・セミナー「ISOのいろは — 標準化のすすめ —」	東京	¥7,700	¥15,400								11/26				

事務局だより

🌸2020年度公開セミナー予定を掲載しました

2020年度のRMA公開セミナー予定を掲載いたしました。

RMAウェブサイトのトップページ(<http://rma/tokyo/>)にも掲載いたしましたのでぜひご覧ください。

🌸COVID-19(新型コロナウイルス)の感染予防対策につきまして

- COVID-19(新型コロナウイルス)感染予防対策といたしまして、今後のセミナー開催日の変更等が発生する場合には、ご受講を予定されている方には随時メールでご連絡をさせていただきます。またRMAウェブサイトにも掲載いたします。
- セミナー開催時、RMAでは以下の通り感染予防対策を実施いたします。
 - ・受付時に受講いただく皆様に除菌スプレーまたは除菌シートをお渡しいたします。
 - ・極力距離を開けてご着席いただきます。
 - ・セミナーで使用いたします備品はアルコール消毒いたします。
 - ・セミナー中、適宜換気をいたします。
 - ・職員はマスクを着用させていただきます。
- セミナーをご受講いただく皆様へのお願い
 - ・セミナー受講の際には手洗い・うがい・マスクの着用等にご協力いただけますようお願いいたします。

編集 後記

RMAセミナー会員制度の発足に伴い、情報誌も「**RMA Plus**」という名称に変わりました。今後も皆様にRMAの活動他、様々な情報を発信していきたいと思えます。これからも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

年の初めには想像もしていなかった、新型コロナウイルス感染症が世界で広がっています。大変な状況が続いていますが、一日でも早く終息してもらうためにも、自分にできる感染予防をしつつ日々粛々とすごしていきたいと思えます。皆様もご自愛ください。

事務局 編集担当 中澤

セミナーのお申し込みは開催日の約3か月前から可能です。

お申し込みお待ちしております!



発行：一般社団法人 RMA

東京都品川区西五反田1丁目11-1

アイオス五反田駅前 502号

☎03-6417-3400

✉jimukyoku@rma.tokyo

<http://rma.tokyo>